大いなる先見

この小冊子が多くの青少年の

「心の糧」となれば幸せです

財団法人 田中研究所

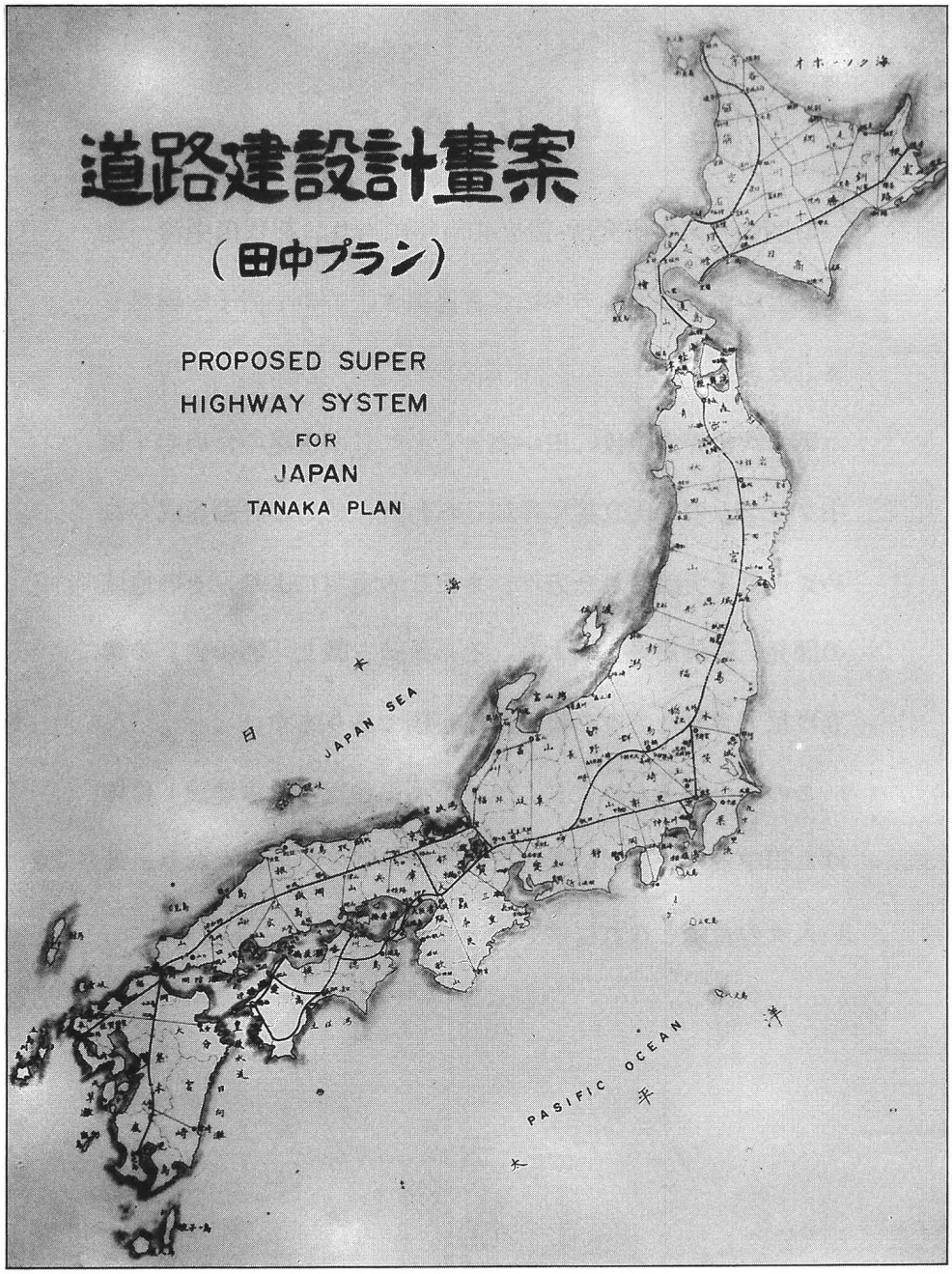
はじめに

財団法人田中研究所 設立40周年に当り、初代田中清一理事長とゆかりのある方々にご寄稿頂き、この小冊子を編集しました。

第二次世界大戦後、田中翁とともに日本再建のための「田中プラン」の企画立案に参加された方々、この計画達成のために運動を実践された方々、またこの実現により、その地域の開発、経済効果が増大し、その業績を讃え「顕彰碑」の建立に尽力された方々の貴重なご寄稿であります。

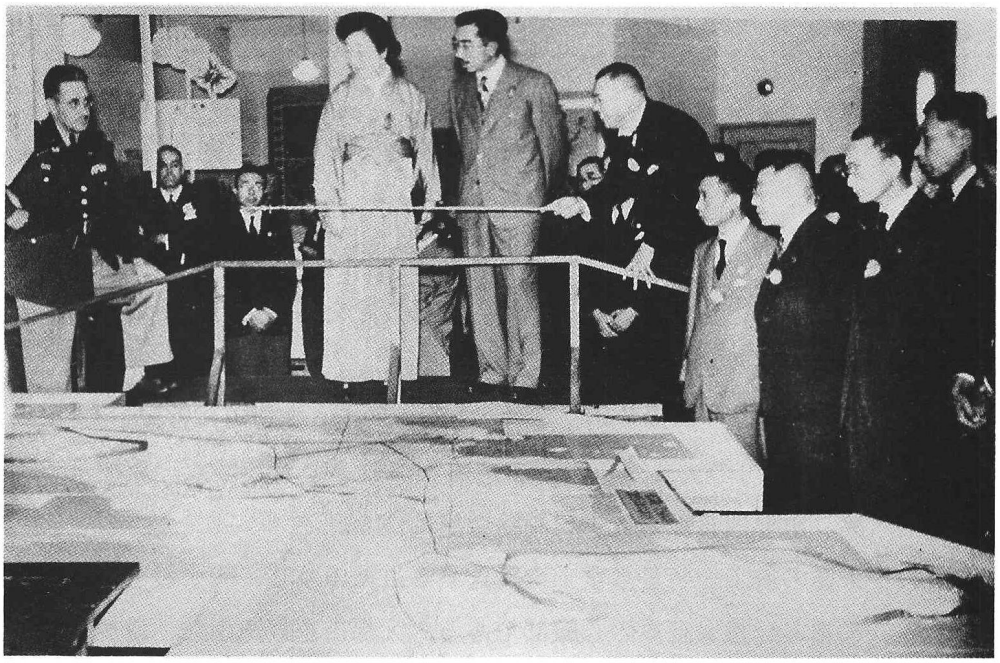
この「小冊子」により、一生を「平和国家日本建設」に捧げた田中翁の業績が、次代を担う青少年の心の糧となり、若い人々の希望となれば幸いであります。

日本全土立体模型原図



これは「日本全土立体模型」（20万分の１・石膏製）に製作した図で、右頁の「国土開発展覧会」に出展し、「天皇・皇后両陛下」がご覧になった立体模型の原図です。

天皇・皇后両陛下に「田中プラン」を御説明申し上げる田中企画者



国土開発展覧会（東京日本橋・三越会場　昭和24年10月20日）

連合国軍最高司令部（G・H・Q）主催にて開催され、**田中プラン**の重要出品である「日本全土の立体模型」（20万分の１・石膏製）を企画者の田中清一氏が天皇・皇后両陛下に詳しくご説明申し上げました。

これはG・H・Qの天然資源局長スケンク中佐（写真左端）が「両陛下」を会場にご案内申しあげた場面です。

日本国立体模型

昭和22年４月「平和国家建設国土計画大綱」がG・H・Qにて検討された結果、「日本再建のマスタープラン」として天然資源局に担当を命ぜられ、更にこれを一目で判るように「立体模型」の制作を田中企画者に要望され、２ヶ年余を費して24年８月に完成しましたので、上記の「展覧会」が開催されました。

―― 終戦直後に企画された田中構想 ――

綜合国土計画「田中プラン」要綱

1.趣旨の要約……日本人全部がこの国土で平和な文化の高い生活を営むため、まず食糧を自給し、次に資源を開発する。そのため道路を建設する。

2.道路の建設……別掲の如く本州、九州、四国、北海道に幹線(バックボーン)の大高速道路網を造る。これより重要地点、重要港湾、重要殻倉地帯に支線を肋骨型に作る。

3.中央道の施工……日本全土を縦貫する道路のうち、先ず最も資源に富み、然も日本の心臓部である六大都市を最短距離、最短時間で結ぶ国家的に最も有利な「東京－神戸間」を第一期工事として建設する。

4.中央道の利点……①農耕地をつぶさず、②新たに酪農地や住宅、工場敷地を拡める。③森林、鉱物、電源、観光の未利用資源を開発する。

5.人口の再分布……沿道各地に新市街、生産工場を設けて過大に膨脹せる不健全な過大都市の人口を分散せしめる。

6.建設計画……建設は五ヶ年計画とし、要費一千五百億円は年次三百億円にて、失業救済と、農山漁村の二、三男に職場を与え、独立の機会を得せしむ。

7.超党派の政策……本案は国家百年の大計なるに依り、党利党略を離れて日本人の総力を挙げて完成し、自立国家の基盤となす。

8.国家繁栄の国策……本計画は国家経済の飛躍的発展を招き、全国計画完成の暁には一億の人口を安住せしむる世界的な楽園となる。

田中プラン要綱の解説

1. 国土開発で新日本を建設する

終戦にて狭くなった国土で日本人全部が平和な文化の高い生活を営むため、山岳高原地や未開発地を開発して国土を立体的に使用し、まず食糧を自給自足し、未利用資源を利用して**新日本**を建設する。

2. 日本縦貫の高速自動車道の建設

国土開発のため、先ず道路を建設し、この沿線に新都市、新農村、工場地帯を造成して、過大に膨脹せる不健全な過大都市の人口を分散せしめ、且つ未開発資源(地下資源、森林資源、水力資源、観光資源など)を開発して**新産業**を誘発する。

3. 先ず、「東京－神戸間」の中央道を建設する

道路は北海道の稚内から、九州鹿児島に至る高原丘陵地帯を貫いて通る日本の大背骨道路を造る。これより表日本と裏日本の各地に連絡する肋骨道路を拡大整備する。

その第一着手は最も資源に富み、且つ経済価値の高い、国家的に最も有利な「東京－神戸間」の縦貫中央道を建設する。

4. 輸送の迅速化と六大都市の連絡

中央道は日本の心臓部である六大都市(東京、横浜、名古屋、京都、大阪、神戸)を最短距離(四八〇粁)、最短時間(四時間半)で結び、輸送の画期的なスピードアップを計って諸産業と日本経済の**飛躍的発展**を計る。　　(昭和二十二年版)

新しい国造り

田中清一翁顕彰会
会　長　斉藤斗志二
（衆議院議員）

昭和30年、「我が国が恒久的に平和な独立国として繁栄するために必要な国土計画を研究し、過大都市と過疎地帯をなからしめ、生活文化の格差を是正すること」を目的として設立された財団法人 田中研究所が、本年40周年を迎えるにあたり、初代 田中清一理事長の国土発展に捧げられた多大な御功績を、次代を担う青少年に広く理解されることを願い、同時に、本誌により、日本の平和と国土発展に、多くの青少年の努力と可能性が注がれることを大いに期待する次第であります。

財団法人 田中研究所が設立された昭和30年は、田中プランすなわち、均衡ある国土発展を目指す日本全土の開発計画が、「国土開発縦貫自動車道建設法案」として、第22回国会に提出された年であります。

この第22回国会における鳩山一郎首相の施政方針演説にもあるように、当時の日本は「敗戦により、経済の基盤を破壊され、いまだ回復は十分でない」状況にあり、国民生活の安定と向上、そして国家として経済自立を成し遂げることが最大の目標でした。

今日、世界経済の中枢にあって、指導的な役割を果たしている日本の現在を観る時、想像し難いことかと思いますが、今から40年前の日本は、まだ戦争の傷跡が深く刻まれていた時代でした。

このような時代にあって、国土の普遍的開発を図り、画期的な産業立地振興、国民生活領域の拡大を期して、全国的な高速自動車交通網を形成するための本法律案は、戦後の日本に大きな発展をもたらすものと全国民の期待が寄せられ、国会においても委員会、本会議での全会一致の可決をもって、昭和32年、第26回国会において成立しました。

稚内から鹿児島まで、文字通り日本を縦貫する自動車道を建設する壮大な計画を実行するためには、莫大な財源が必要であり、当時の日本の国力では外資導入に頼らざるを得ない所ですが、田中清一翁は、この極めて大きな問題も「国土建設目的

貯金」の創設による建設予算捻出という画期的な方法を提唱されました。

国民一人が一日一円の貯金を新しい国造りのために行うことによって、一年間に321億2千万円の貯蓄が生まれ、これを基に建設公債を発行するという所謂「一円貯金」は、残念ながら国民運動として遂行されるには至りませんでしたが、全国各地で有志による貯金が行われたことは、日本の戦後史の中に特筆すべきものと存じます。

今日、我が国の大動脈として整備されている高速道路網が、正に「田中プラン」を原点として始まったことを考える時、田中清一翁の偉業に対し、敬服の念にたえません。

1962年以降、四次にわたる全国総合開発計画が策定され、首都圏一極集中の機能を地方へ分散し、その受け皿となる地域開発に重点が置かれてきました。現在の四全総では「多極分散型国土」の形成を目指してきましたが、さらに次期全国総合開発計画においては、「地域連携軸」による「多軸型国土」の形成が目標となります。

日本列島を縦断する国土軸間をろっ骨状に結ぶ「地域連携軸」が、21世紀初頭の日本の国土計画の中心となります。

戦後まもない昭和24年に田中清一翁が掲げた日本の国土形成の壮大な理想が、多年の歳月を経て、正に21世紀に実現しようとすることに大きな感動を覚えます。

そして、その時、日本の第一線で活躍されているのが、今、勉学に励んでいる青少年の皆さんに他なりません。

本誌を手にした皆さんが、田中清一翁の偉業に寄せられた各界からの言葉に触れ、田中翁の、日本を愛する心、そして愛する日本のために何を成すべきかという姿勢に接することで、将来に向けての大きな理想を掲げてくださることを願ってやみません。

ここに、「財団法人 田中研究所」設立40周年にあたり発刊された本誌が、青少年に日本の将来を真剣に考える機会を与え、素晴らしい日本を築くために邁進されることを心から期待致しまして、本誌発刊に寄せる言葉と致します。

田中清一翁顕彰銅像（東名沼津I.C入口）

従四位
勲二等

田中清一翁顕彰銅像（碑文）

田中清一翁は、昭和二十年八月終戦の大詔を拝して日本再建を念願、山岳高原地の多い国土を立体的に使用すべく、日本の北端から南端まで中央背部を縦貫する高速道路を建設し、その沿線において新都市の建設、新農地等の造成、諸資源を開発する企画案を「平和国家建設国土計画大綱」と表題して政府に献策す。

当時の連合国総司令部は、この田中プランを評価し、その「立体模型」の作成を要望、田中翁の制作した模型を中心に昭和二十四年十月、国土開発展覧会を開催し、天皇・皇后両陛下のご来場をいただき、お言葉を賜わる。

田中翁は、国民運動を盛り上げるため、国民各層に対する講演に全国行脚するとともに「国土建設推進連盟」を結成し、国会に請願書を提出。昭和二十九年建設省内に「中央道調査審議会」が設置され、「国土開発縦貫自動車道建設法案」が、国会で昭和三十二年全会一致で成立す。田中翁は道路建設を推進するため昭和三十四年参議院全国区から立候補して当選、国会活動を行なって、プラン実現に努力し、任期満了にて下野、「勲二等瑞宝章」を賜わる。

畢生を国土開発に尽瘁した田中翁は、昭和四十八年十一月二十七日、忽然と他界。享年八十一才、「従四位」を追叙される。

計画高速道路のうち、昭和四十二年から着工した「中央高速自動車道」の最大難工事だった「恵那山トンネル」は昭和六十年三月に完工し、全区間の開通実現全域の歓喜、田中翁の功績を後世に伝えるため、東海地区は岐阜・長野両県に引続き、此処に顕彰銅像を建立す。

田中翁は、福井県出身、株式会社富士製作所創立者、沼津商工会議所会頭等の要職を歴任し業界の振興、社会事業の推進に貢献多大な実業家であった。

平成二年五月吉日

田中清一翁顕彰会会長　静岡県知事　斉藤滋与史

中央道完成を記念して

中津川市長 **小林　房吉**

私が故田中先生の講演を聞いたのは、昭和24年頃と記憶しています。

敗戦後で衣食住に事欠き、目標をもたないその日暮らしの時代でした。が田中先生はすでに新しい国づくりを目指し「平和国家建設国土計画大綱」を提唱されて、この計画実現のため私財を投じて各地を講演され、その田中先生の日本の将来を思う情熱は、多くの人々に共感をあたえました。

私が特に講演の中で記憶に新しいのは国土縦貫自動車道構想で、赤石山脈・中央アルプスに長大トンネルを掘って三大都市圏を短時間で結び、同時に周辺地域の開発を計るという夢のような話しでしたが、何かこの暗い時代の一隅に光明を見る思いでした。

その後田中先生の献身的なご努力と弛み無き情熱により、この夢は中央自動車道として立派に実現し沿線地域発展に大きな役割を果しています。当市もこの恩恵を受け岐阜県の東濃地域の中核都市として大きく発展してきました。

昭和59年、当時中津川市商工会議所の会頭であり、また戦前より田中先生と深い人脈のありました丸山敏治氏より、中央自動車道の難工事であった恵那山第二トンネル工事の完成を機に、高速道路の礎を築いた田中先生の業績を讃えて「顕彰碑」を建立してはと発案があり、県・市共発起人となり、当時私は助役でしたので、会頭とともに碑の建立場所や碑石の選定、用地の交渉、資金の調達に奮闘し、予定どおり昭和60年に恵那山トンネルの望める神坂の地に立派に完成することが出来ました。

私はこの顕彰碑の建立に参画し、いささか田中先生の功績に対し顕彰の誠をつくすことができ心から喜んでいます。

また、この顕彰碑が縁となり、沼津市始め㈶田中研究所の皆様と現在も親しくご交誼を賜り、誠に光栄に存じ心からお礼申し上げます。

田中研究所創立40年によせて

中津川商工会議所

会頭　吉村　文平

私の知る田中清一先生は、「国土建設一円会」から始まったと覚えています。

当時中津川へは、先生自ら運転なさるジープでやってこられた記憶ですが、畳の上に拡げられた手製の地図に、当地一帯が克明に記され、通過予定地を説明された後、いわゆる「田中プラン」と言われる国土計画の基本構想を諄諄と説き進められました。

その構想の雄大さと、実現に向けての先生の情熱に聴き入る者十数名は、言い難い感銘と共感に打たれたものでした。間もなく先生は参議院議員に立候補されましたので、後の中津川商工会議所 丸山会頭が陣頭指揮をとり、参院選のお手伝いをしました。

戦後間もない混乱した日本社会にあって、「国土を立体的に使用し、全国の道路網を近代化する」ことが決めてと説かれた先生の執念にも似たプランが、ようやく現実のものとなり、昭和50年には待望の恵那山トンネルが開通し、中津川市をあげて祝賀会を催しました。祝賀会の開催に際し、沼津市の富士製作所本社を訪ね、トラックいっぱいの「田中プラン資料」を拝借して展示し、その構想の偉大さと計画の緻密さに、中津川市民は等しく驚嘆致しました。

この偉大な先覚者と、その偉業を後世に語り伝えようと、恵那山トンネル入口に、「田中清一翁顕彰碑」が建立されたのは、第二トンネルの開通した昭和60年３月でした。

田中研究所創立40周年に当り、手製の地図に熱弁を以って、執念を述べられた当時を思い起こしながら、企画の先見性と中津川市の蒙る永劫の恩恵に感謝しながら、40周年を祝うことばにしたいと思います。

田中清一翁顕彰碑（中央高速神坂P.A）

建立された田中清一翁顕彰碑

従四位勲二等 田中清一翁顕彰碑（碑文）

田中清一翁は終戦直後の国土荒廃と人心の動揺のなかにあって一人日本の将来に思いを馳せ「平和国家建設国土計画大綱」と題したいわゆる田中プランを作成し昭和二十二年三月政府に献策された　田中プランの本旨は食糧など資源の開発と人口の分散による国土の均衡ある発展を図るためには国土全域にわたる高速自動車道の建設が基本的条件であり　なかんづく東京と大阪を広大な内陸部で接続する「中央道」こそ緊急に着手すべきであるとしたもので　当時としては誠に気宇壮大かつ時代を先取りする卓越した大構想であった　田中プランは奇想とも言われ世人を驚倒せしめたものであったが故に実現への道程は極めて困難であったすなわち連合国軍総司令部（G・H・Q）の支持を得つつ　二十四年十月には　天皇陛下への御説明を始め全国各地での講演さらには私財を投げ打っての現地調査研究に努められたが容易に進展せず三十四年からは参議院議員として中央道早期建設に挺身されるなどその不撓不屈の精神は余人の及ぶところではないといえよう　このような翁の誠意と計画の偉大さがしだいに認められた結果三十二年に「国土開発縦貫自動車道建設法」が制定されたのちついに四十一年七月中央自動車道として着手され五十年八月に県内区間が　五十七年十一月には全線が開通しさらに六十年三月破砕断層地帯として最も困難を極めた恵那山トンネル第二期工事が完成したことによって翁発願の夢は見事に実現したのである　今中央自動車道は当中津川市を全国各地に結ぶ高速道路ネットワークとして我が国の隆盛に大きな役割を果しているがここに至らしめた生みの親とも言うべき田中清一翁の功績をたたえるためここに顕彰碑を建立しその偉大なる事蹟を後世に伝えるものである

昭和六十年三月吉日

田中清一翁顕彰碑発起人

岐阜県知事　上松陽助
岐阜県議会議長　木村建
中津川市長　小池保
中津川市議会議長　伊藤永二
中津川商工会議所会頭　丸山敏治

大いなる先見

飯田商工会議所

専務理事　山岸　英二

山都飯田のふるさとの山、風越山(かざこしやま)の麓を南から北へ走る中央自動車道、その飯田インター入口に「田中プラン」の提唱者であり、中央自動車道の生みの親でもあります沼津市の田中清一先生の胸像顕彰碑が建立されています。

その碑文の一節に「…東京まで全線開通となった。陸の孤島といわれた飯田市及び伊那谷に待望の黎明がもたらされ地域振興に果す役割は計り知れないものがあり、当地は歓喜の声に湧き、この自動車道の生みの親とも云うべき田中清一翁に深甚なる謝意と敬意を捧げた…」とあります。

飯田市は全国の中で高速自動車道の恩恵に最も浴している都市と云われています。

顧みますと田中清一先生が飯田へお見えになり最初の講演を頂いたのが昭和27年冬1月のことでした。

飯田商工会議所が全国に先がけて「田中プラン」をお聴きしたわけですが講演が終って、地元有識者の中からこれが誇大妄想と云うものだと、笑えない一幕がありました。戦後全国民が食べるのに精一杯であり、大きく国土を失った日本民族に希望と、自信を持って国家再建に向うべき道を老若男女を問わず呼びかけ、私財を投げ打ち、自ら実践し、ついに我が国の高速自動車道路網の幕開けを導いた偉業と共に先生の見識が如何に高く、深く、次の時代を読みきっていたかは、吾々には計り知れないものであったわけです。

胸像ブロンズ(朝倉文夫作)は田中清一翁顕彰会本部から飯田地区顕彰会へ贈られたものでこれに対して地元として誠心誠意応えるため、先ず台座は地元石材店にスエーデン産最高の「クィーンレッド」石があり、これを求め地元関係各位(飯田市、下伊那郡町村会、会議所、商工会、農業協同組合、沿線高速道自動車各社、元善光寺他)に依って建立されました。

除幕式は田中家御親族様始め、田中研究所、顕彰会の御各位の参列のもと厳粛の中に盛大に行われました。今顕彰碑の小公園には田中家から贈られた赤白の2本の

ハナミズキが元気に育っています。

顕彰碑建立によって遠い沼津の皆々様とお近付きになれて幸を感じています。順不同で失礼しますが、田中清一翁顕彰会 常任理事 高野芳信様、田中研究所理事 田中清正様、理事長 瀬上清高様、常任理事 田中穂積様、亦電話の声ですぐわかる顕彰会 後藤事務局長様、そして田中先生と一緒に最初飯田駅でお会いした亡き平澤秘書様、特に瀬上理事長様には達筆をもって何十通ものお便りや、写真を頂き深謝に堪えない次第です。

終りに田中清一大先生こそ戦後日本の再建と共に真の世界平和を心から祈った方であると日毎に念を深める次第です。

「田中プラン」を力説する田中企画者

田中清一翁顕彰碑（中央道飯田I.C入口）

従四位 勲二等 田中清一翁顕彰碑

田中清一翁は終戦直後、日本の将来に思いを馳せ、「平和国家建設国土計画大綱」と題した田中プランを作成し昭和二十二年三月政府に献策された。この大綱の本旨は、国土の均衡ある発展を図るには国内全域に亘る高速自動車道の建設が基本であり特に東京大阪を内陸部で接続する「中央道」こそ緊要であるとし昭和二十四年十月天皇陛下へのご説明をはじめ各地での講演、私財を投じての現地調査につとめた。三十二年に「国土開発縦貫自動車道建設法」が制定され、三十四年翁は参議院議員として中央自動車道早期実現に粉骨砕身され遂に四十一年七月中央道建設着工、恵那山トンネルの難関を突破して伊那谷に進み五十年八月駒ケ根インターまで供用開始、五十七年十一月　東京まで全線開通となった。陸の孤島といわれた飯田市及び伊那谷に待望の黎明がもたらされ地域振興に果す役割は計り知れないものがあり当地は歓喜の声に湧きこの自動車道の生みの親ともいうべき田中清一翁に深甚の謝意と敬意を捧げた。ここに田中清一翁の偉大な功績を称え永く後世に伝えんがため顕彰碑を建立するものである。

昭和六十三年十月吉日

発起人

飯田市
下伊那郡町村会
飯田商工会議所
飯田中央農業協同組合
下伊那商工連合会

國土建設推進連盟
創立の頃を思いかえして

財団法人 田中研究所

評議員 **松田 江畔**

戦時中翼賛会、翼賛政治会、翼賛壮年団の幹部だった人はみな戦後追放となり、公職から去りました。この人達は静岡県下で四十余人ありました。団長は八十才に近かったが、其の他は皆五十才代で旺盛な活動力を持っていた人達ばかりでした。

昭和二十八年の正月、慰労会の名目で焼津に集まりましたが、田中さんもその中の一人でした。この会の人達は兼ねてから田中さんの国土開発に関する計画を知っており、その推進のために身命を抛って東奔西走していることをみな知悉しておりました。

この日の会合の目的の一つは、田中さんの意見を充分聞き、それがよいと決ったら、みんなして力を会わせ、バックアップしようということでありました。その考えは私ほか数人で、参会者に話しませんでした。

宴酣な時になって、司会者である私から「田中さんは兼ねてから国土開発に対する一つの意思を持ち、これを推し進めているから、今日はその意見を発表して頂きましょう」と持ちかけました。

田中さんは喜んで応じ、約一時間に亘って、計画のあらましを語りました。それは大変熱気のこもったもので、心中の烈々たる憂国の至情が溢れていました。

田中さんの話が終りますと、皆さんから次々と質問が出ました。それに対して田中さんの答えは明解で、少しの渋滞もありません。

だが最後に片平七太郎氏が、「田中さんの努力と熱意はわかったが、マッカーサーや吉田首相を個々に口説き落としても、国会が動かなければなんともならんでしょう。一人で一々この計画を説いても実現は覚束ないのではありませんか」、という意見に、田中さんもそれは賛成ですが、その智慧を貸して下さいよと答えました。

それなら推進団体を作り、大勢の力で強力に推進することだ、その母体をわれわれが作ろうではないかと言う事に一決しました。

これがすべての始まりになりました。その後、私は一任されて、田中さんと毎日逢い、ありとあらゆる場合を想定して質問し、パンフレットを五千冊印刷しました。

そして第二回目の会合を三保園で催し、第三回目は沼津で国土建設推進連盟の発会式に漕ぎつけました。次いで機関誌「新国土」を発刊し、次々と講演会を開きました。講師は勿論田中清一さん、それに協力してくれる顧問です。これは盛会でした。

静岡の第一回講演会には千五百名も聴衆が集り、それが皆会員になるというほどです。勢いに乗って、浜松、名古屋、彦根、京都、神戸と連続開催しましたが、彦根では沿線になる地方の農民が反対の幕旗を立てて押し寄せました。しかし田中さんの説明で皆納得して帰ったのであります。

私は神戸まで田中さん、秘書、と三人で行き、前座は屢々つとめました。会員は日毎にふえ、各地に支部が出来て、その講演会には田中会長が出張しました。山梨県、長野県、岐阜県は、中央道となる関係で会員も多く、特に飯田市の皆さんは熱心さが目立ちました。　この勢いは国会をも動かし、遂に超党派で国土開発縦貫自動車道建設法案は通過したのでありますが、予算は容易につきません。吉田首相と小澤建設相は、事々に努力してくれましたが、時が来ないというのか捗りません。

そこで田中さんを全国区参議院議員に推し出そうということになって、改選期を利して立候補しました。この選挙で田中さんは見事に当選し、参議院の建設委員として、高速自動車道の実現に全力を傾けました。

この推進連盟の活動は、選挙を以て使命が終ったようなものであります。

その後当初推進連盟のため尽力された、柴山重一会長、片平七太郎理事長、森口淳三、加藤弘造理事等大半は亡き人になり、私と西貝義朗氏の二人が生き残っております。

私事になって恐縮ですが、私と田中さんとは不思議な因縁があります。

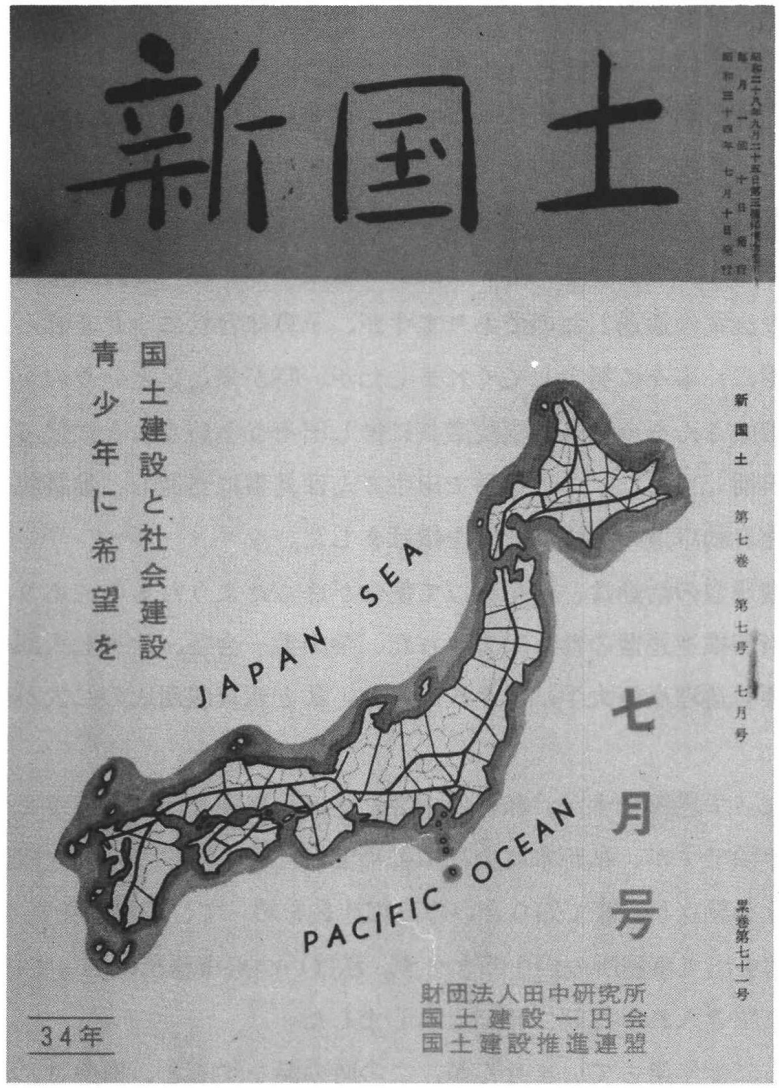
昭和三年頃ですが、私が木材会社に勤めていた頃、田中さんは大阪製材機工作所という会社を設立し、兼て知り合いの高畑社長を頼って、製材機を売りに来ました。

朝早く宿を出て事務所の戸を叩きます。私はいつも事務所に泊っていましたので、戸を開けて招き入れ、毎朝二時間も話しました。

それから二十年逢っていませんが、この時の話をすると、田中さんも思い出して驚いておりました。

田中さんが追放になったのも、終戦間近の一月に、私が翼壮の総務に推薦したからでありますが、その翼壮幹部の憂国のエネルギーが田中さんの案と結びつけたのです。不思議な縁と言はねばなりません。

機関紙「新国土」昭和34年７月号



出逢いを大切に

財団法人 田中研究所

評議員　林　宗重

(1)田中翁との出逢い

飯田地方は地図の上では日本の中心になるが、全くの陸の孤島だったので、田中プランは将に飯田地方に最大のショックを与えました。

嘘か誠か、田中なる男は気違いか或いは救世主なのか。私も強い関心と大きな期待をかけておりました。

たまたま昭和28年の秋、村役場の２階で先生のお話を拝聴することになりました。私は１時間余り瞬きもせず、喰い入るように全神経を集中しました。あゝ!!この方は本物だ。今どきこんな素晴らしい先覚者はいない。私の突込んだ質問などから、お目にとめていたゞくようになりました。

(2)来飯時の出迎え

飯田地方における中央道への関心と期待が高まるにつれて、各町村から講演の要望が軒並となり、沼津から豊橋乗換で来飯される度数が増してきました。５万分の１で作成された東京～神戸間の大鳥瞰図を秘書の平沢久次郎さんが背負われて来られました。当時は飯田線も混みましたし乗換時に座席がなくては大変だろうと、私は都合のつく限り豊橋まで出向いて、お二人を迎え飯田までお供をしました。豊橋で壷屋の稲荷ずし、山サ竹輪、お酒を用意され、車中で昼食というパターンでした。飯田へ着くまでの３時間余り、先生から色々とお話を聞くのが唯一の楽しみであり又教えられました。勤務先の会社でも私の行動に理解して下さったことも有難く思っておりました。

(3)現地調査のお供

昭和30年頃でしたか、天竜川の左岸の千代村と泰阜村の境に米底という所があります。名前の通り深い谷底で、天竜峡の宿から車で40分位。東側の山肌と西側の山肌との間が通過予定地ということでした。一行から少し離れた所で立っておられるので、用でも足してかなと思ったがそうではなく、天地神明に祈りをしておられた

のでした。敬神崇祖の念厚きことは聞いていたが、それを眼のあたりにして私は感激しました。その時はかれた地下足袋(藤倉製11文)は、私が預ったまま保管してあります。

(4) 1円貯金

中央道建設が一大国民運動として提唱され、飯田地方でもあちこちで貯金活動が始まりました。私も家族、親戚、職場と運動しました。特に次代を担う若人にということで、龍江の小学校1年生に入学記念として郵便局へお願いして、国土建設一円貯金通帳を寄贈させて貰っています。今年で38回になるが私が健在中は続けて行くつもりでいます。

(5)先生と食事

先生は福井県の山奥育ちで山菜など好まれた。魚では鯉のうま煮。お宅への訪問の時は鯉。或いは山家に暮している私の姉に頼んで、たらの芽や生椎茸を持参して行きました。9月3日先生の誕生日にお伺いした時、1晩位ゆっくりするよう申され、玄関の次の大部屋で休ませてもらいました。夕食は先生の居間でご馳走になりました。先生は日頃高血圧気味で、奥さんが食事については細かに気をつかっておられるようでした。当然ながら酒はコップ一杯に制限されていたようで物足らず、お孫の清明さん(小学校1年生位)を呼んで「今日はお客さんがいるから特別もう一杯おばあちゃに頼んでくれ」間もなく戻って来て「今日はもう駄目だって」との返事で、先生も一寸がっかりしたようでした。

冬の或る日お訪ねした時、社務所へ案内され先生と2人だけでした。他に来客もなく先生もくつろいでおられました。広い社務所の中央にストーブがあり、大きな薬缶が乗せてありました。「今日はうまい酒の飲み方を教えてやろう」とコップに3分目位白雪の1升びんから注ぎ、薬缶の湯の上に浮かべ好きなお燗で飲むのが上々とのこと。私も真似していたゞきました。先生も相当の通であられた。

(6)先生の眼の疲労

当時は5万分の1の地図しかなく、建設計画を実施する上で非常に眼を酷使された。後にはそれを1万に拡大して使用されるようになった。飯田地方現地調査の折、3百米位の距離を5百米程に感じられたこともあり、先生の眼も相当疲れておられ心配でした。

沼津へ訪問した或る日。平沢さんのご案内で社務所に着くと、先生は応接室で元

建設省道路局長の富樫凱一氏と対談中でした。やがて先生が出て来られ、彼が道路局長時代５万分の地図で苦労し、そのおかげで眼を傷めてしまった。それで今「わしの眼の悪くなったのは、もとをいえば君のせいだ」と冗談をいってやった、と話されました。

(7)翁80才誕生祝賀

昭和34年に参議院議員に、その後体調を崩され韮山でのご静養など、先生のご来飯は十年近くもなかったようです。何とか先生と飯田の旧交を温めながら、併せて満80才の祝賀会を小野田正氏と立案し、昭和47年９月、大橋旅館で開催しました。同志多方面より集合し２日間の日程を有意義に終りました。

そして帰られる途中、龍江の神明社へ参拝され、拙宅へ奥さんとお立寄りいたゞき、母の手作り栗の煮ころがしを召し上がってもらいました。想えばこれが飯田への最後となりました。

(8)飯田インター入口の胸像

昭和48年11月27日突如として先生の御逝去、無情とも無念とも胸が痛んだ。50年８月待望の恵那山トンネルの開通式には、ご遺影は長男清正さんの胸に懐かれて無言のご参加。もう２年長生きしてほしかった。

その後、先生への顕彰の声は各地におこり、飯田では建立場所の適地探しで２転３転の末、昭和63年10月現在の地に安置されました。

先生の胸像はインター方面を眺める姿勢で日本の将来をジット見守っておられる。田中先生逝きて21年になります。昭和28年以来先生から教えられたこと数多く、いつまでも私の胸中に生き続けております。

故田中清一翁の思い出

財団法人 田中研究所

理 事 **野田 精一**

故田中清一翁と私の親父故野田正一との交際は仕事から離れた深い友情でした。故田中翁の人柄については良く聴かされて居り日本国土をより良くするには道路計画であるとの個人的な欲望から離れた識見でありました。

昭和12年初代田中清一理事長が「綜合国土計画研究所」を創立し引続いて新国土建設の努力をなされました。こう云った故田中翁の努力が今日の「高速自動車道路網」の基礎を築く事が出来ました。「田中プラン」を模型にして昭和天皇・皇后両陛下を展示されて居る三越まで御越しを願い故田中氏が御自身で説明された事は彼の真面目さと熱意と思われます。

新日本全国に今後「高速自動車道路網」が完成する事と思いますが是に対し我々は故田中翁に心から感謝を捧げたいと存じます。

思い出の田中清一翁

田中清一先生を偲んで

元参議院議員 田中清一 秘　書
元国務大臣 古賀雷四郎 秘書官

今　井　高　士

「国土開発縦貫自動車道建設法」は昭和31年に保守・革新両派の共同提案で、しかも衆議院議員430名すべてが提案者という形で提出され、翌32年に成立しました。この法律の成立に際しては、当時衆議院議長 故 石井光次郎先生を始め、元建設省道路局長 故 富樫凱一氏、参議院議員 故 青木一男先生、日本社会党衆議院議員 故 中島巌先生などが尽力され、私も及ばずながらお手伝いの一端を担わして頂きました。当時、建設省を始め、関係省庁の折衝に苦労したことを思い出します。その時にご活躍された先生方のうち数人の方は物故され、改めて昔日の感ひとしおのものがあります。

この法律はその後、昭和41年、62年と２度にわたる大改正を経て現在に至っております。41年改正では、高速道路網の体系的整備のため、各地方ごとにばらばらに制定されていた自動車道建設法を「国土開発縦貫自動車道建設法」に統合し、名称も「国土開発幹線自動車道建設法」に改称するとともに、予定路線7,600kmが法定されました。62年改正では、四全総で提唱された14,000kmの高規格幹線道路網構想を受けて予定路線が追加され、11,520kmの道路網として構成されることになりました。

国土開発幹線自動車道は、有料道路制度を活用した高速自動車国道として整備が行われており、現在その供用延長は、昭和38年に名神高速道路の一部が開通して以来、30年余の間に約5,600kmに達しておりますが、それでも計画の半分しか達成されておりません。この国土開発幹線自動車道を中心とした高規格幹線道路網が完成すれば、全国どこに住んでいても一時間以内にインターチェンジに到達できることになり、多極分散型国土の形成、活力ある経済に支えられた個性豊かなゆとりある地域社会の実現に寄与することになります。

さらに、東京一極集中を是正するためには、現在の中央集権的な東京中心の放射状道路体系から、地域間の交流を目指した循環型道路体系に変えてゆく必要があろ

うと思われます。そのためには、高規格幹線道路のほか今後予定されている地域高規格道路の整備促進、第二国土軸構想の実現が不可欠であります。本格的高齢化社会を迎える前に、このような道路ネットワークを早期に完成させることこそ、21世紀に向けての地域構築の時代にふさわしい施策と言えましょう。

「新日本の建設」について講演する田中清一先生

初代田中清一理事長の業績

財団法人 田中研究所

理事長　**瀬上　清高**

このたび、当研究所設立40周年を記念して、「小冊子」発刊に当たり、地元、田中清一翁顕彰会 斉藤斗志二会長(衆議院議員)はじめ田中翁の業績を顕彰された長野県飯田地区の方々、岐阜県中津川地区の方々のご寄稿を賜わり、厚く御礼申し上げます。

顧みますと、当研究所初代 田中清一理事長は、第二次世界大戦の戦災により日本全国各地の都市・住宅・建造物や交通網が破壊され、特に深刻な「食糧の不足」で社会は極度に混乱し、人心は不安動揺していた終戦の直後から、狭くなった国土を立体的に活用し、新都市・新農村および新工業団地を造成し、更に全国の道路網を近代化し、この沿線の資源開発を行ない、特に「食糧の自給自足」を重点に、画期的な諸施策を企画し、二度と悲惨な戦争を起こさないように「平和国家建設国土計画大綱」を企画立案したのであります。

この「平和国家建設国土計画大綱」は、昭和22年３月には日本国政府に献策され、連合国軍司令官マッカーサー元帥も日本再建のマスタープランとして高く評価し、爾後「田中プラン」と命名されました。更にこれを一目で理解できるように、日本国土の「立体模型」(20万分の１、石膏製)を完成し、昭和24年10月には、東京・日本橋三越会場大ホールにおいて「国土開発展覧会」を開催。

「昭和天皇・皇后両陛下」がご高覧になり、田中企画者が長時間にわたってご説明申し上げ、「理想的な国土計画の実現を期待する」との激励のお言葉を賜りました。

全国の有志は、「田中プラン」実現の国民運動を起こすため、昭和28年２月「国土建設推進連盟」を結成し、機関誌「新国土」を発刊、田中プランの推進状況、国会討論、世界状況などを記録し、全国各地の情報を交流してまいりました。

この「田中プラン」は、高速自動車道路建設計画案として、北は北海道稚内から南は九州鹿児島まで日本を縦貫する背骨の道路を建設して、これに太平洋側と日本

海側を結ぶ道路を連絡して、多目的に日本全土を開発するものであります。

この第一期事業として東京－神戸間を最短距離で結ぶ、いわゆる「中央道」を建設することが、本計画を一層有意義ならしむる最も重要な条件であると考えたのであります。昭和30年１月には「国土建設一円会」を結成し、全国民の１人１日１円宛の「国土建設目的貯金の国民運動」を積極的に国土建設推進連盟を基盤にして、全国的に展開しました。１人１人の節約により、結果は自分の貯金となり、また国土開発ができて子孫のため幸福な道を築くことが趣旨でありました。

田中企画者は、このような国民運動の先頭に立って全国的な講演活動は云うまでもなく、長野県下伊那の峡谷や山梨県富士五湖周辺、岐阜県中津川の恵那山麓などを地下足袋を履いて実地踏査し、より精密な企画立案の資料を作成いたしました。

前述のような国土計画の事業を積極的に推進するため田中企画者は「綜合国土計画研究所（昭和12年１月創立）」を発展的に解消し、昭和30年10月「財団法人田中研究所」を創立、政財界の名士を顧問、理事に迎え、理事長となって運営して参りました。

昭和32年４月には、「国土開発縦貫自動車道建設法案」が国会で成立、田中理事長は、学識経験者の資格で審議委員となり、昭和34年６月、参議院議員に全国区より当選後は、国会議員の資格でこの実現に全力を尽くしました。

昭和38年７月、わが国に最初の高速自動車道路が誕生しまして、逐次全国的に建設が進められ、特に田中理事長が提唱企画した「中央自動車道」が昭和41年７月着工され、最も困難な工事とされていた恵那山トンネル第１期工事が、昭和50年８月に、同第２期工事が昭和60年３月に完成し、陸の孤島と云われた飯田市および伊那谷に黎明がもたらされたのであります。

田中理事長は、「中央自動車道」全線の開通を前に、昭和48年11月、残念なことに他界されました。

今や高速自動車道路網は、日本全国で開通区間5,700kmに達しております。このような交通網の必要性これに伴う経済効果を、50年前に誰が予測したでせうか。

終戦後の焼野が原に立って日本の将来を先見した、当時としては誠に気宇壮大卓越した大構想を「平和国家建設国土計画大綱」にまとめ上げ、この実現に一生を捧げた田中清一翁こそ将来の日本国を担う青少年の鏡ではないかと思考して発刊のことばとさせて頂きます。

田中清一　経歴

出生地　福井県大野郡和泉村

現住所　静岡県沼津市日の出町401

出生日　明治25年9月3日

略　歴

◆明治38年 3月　福井県大野郡和泉村日進小学校卒業

◆大正 5年 3月　大阪工業専修学校にて修学後、大阪市の合名会社藤田組に入社し、米国ミルウォーキ州アルスチャルマー会社の技師、W.リチャード氏より製材機械の操縦法及び機械設計法を学ぶ

工場建設と創業

◆大正 7年11月　大阪市西成区石田町156番地に工場を設け「大阪製材機工作所」の商号にて個人経営で創業

◆大正13年 4月　本社及び工場を大阪市浪速区木津川町１丁目１番地に移設

◆昭和 6年 7月　増設工場を風光明媚な静岡県袖師海岸に選び「清水工場」を建設

商号改称と株式改組

◆昭和 6年 7月　麗峰富士を仰ぐ新工場に因み、商号を「富士製作所」と改称

◆昭和13年 3月　経営組織を資本金百万円の株式会社に改組し、代表取締役社長に就任

◆昭和13年 7月　事業の拡大に伴い、沼津市三枚橋日の出町401番地に近代様式の鉄骨鉄筋コンクリート建の工場を建設し、「沼津工場」と名称

◆昭和16年 4月　沼津工場は第一期、第二期、第三期の工事を続行し、全計画の完成と共に「本社工場」とし、資本金を参百万円に増資

◆昭和20年 5月　大東亜戦争中、「清水工場」は戦時強制疎開を命ぜられ、岐阜県郡上郡白鳥町に全施設を移転し、以後「白鳳工場」と呼び、今日に至る

◆昭和21年 1月　終戦処理のため、取締役会長に就任

◆昭和28年 8月　資本金を壱千弐百万円に増資

◆昭和28年11月　資本金を参千万円に増資

◆昭和32年 1月　資本金を六千万円に増資

◆昭和33年 8月　代表取締役社長に復任

◆昭和35年 8月　資本金を壱億円に増資

関連会社

◆昭和21年10月　岐阜県の白鳳工場に隣接して、「富士木材興業株式会社」を設立し、取締役社長に就任し、現在に至る

受命事項

◆昭和15年 3月　商工省より試作奨励機として、「油圧式平削り盤」の試作命令を受く

◆昭和16年 1月　商工省より「油圧式平削り

盤」に対し、総動員法により「試作研究命令」を受け、これを完成の結果「優良」の検定を受く

◆昭和16年 3月　商工省より「クランクピン研磨盤」及び「カム研磨盤」の試作研究命令を受け、これを完成の結果「優良」の検定を受く

◆昭和17年 2月　工作機械事業法による「許可会社」に指定さる

◆昭和19年 2月　軍需省より「軍需会社」に指定さる

◆昭和21年 8月　終戦により「賠償管理工場」に指定さる

◆昭和27年 4月　同上の「賠償管理工場」の指定を解除さる

業　界　関　係

◆昭和14年10月　静岡県工作機械工業会常任理事に就任

◆昭和15年 1月　静岡県清水鉄工組合組合長に就任

◆昭和18年 8月　大沼津工業会会長に就任

◆昭和31年 2月　沼津商工会議所会頭に就任

◆昭和34年 9月　沼津商工会議所会頭を辞任し、顧問に就任、現在に至る

国土計画関係

◆昭和12年 1月　「綜合国土計画研究所」を創立し、所長に就任

◆昭和20年 8月　大東亜戦争の終戦により、直ちに「新日本建設」のため「日本再建に関する綜合国土計画」の立案に着手

◆昭和22年 3月　「平和国家建設国土計画大綱」を企画・発案して政府に提出

◆昭和22年 4月　連合軍最高司令部(G・H・Q)において「平和国家建設国土計画大綱」を審議され、これを「田中プラン」と呼ばれ、以後「天然資源局」において検討を続けられ、この実現に協力さる

◆昭和28年 2月　「国土建設推進連盟」を結成、会長に就任、現在に至る

◆昭和30年 1月　「国土建設一円会」を結成、会長に就任、現在に至る

◆昭和30年10月　「財団法人　田中研究所」を創立、理事長に就任、現在に至る

国会・政党関係

◆昭和34年 6月　参議院議員「全国区」に立候補して当選、国会の議席に就く

◎国会・自由民主党において下記委員に就任

参議院建設委員会(常任委員)
参議院決算委員会(常任委員)
自民党道路調査会(副会長)
自民党政調建設部会(委員)
自民党政調国防部会(副会長)
道路調査会(副会長)
国土開発縦貫自動車道建設審議会(委員)

◆昭和40年 6月　参議院議員「全国区」の任期6ヵ年満了と共に辞任

◆昭和44年 8月　自民党沼津支部長に就任

◆昭和48年 8月　自民党沼津支部長を辞任、名誉顧問に就任、現在に至る

天皇・皇后両陛下に拝謁

◆昭和24年10月20日　「平和国家建設国土計画大綱」(田中プラン)の「20万分ノ1」の立体模型及び各資料が日本橋三越の会場に陳列され、連合軍最高司令部の天然資源局長スケンク大佐のご案内にて、
天皇・皇后両陛下がご覧になられ、企画者の田中清一が拝謁を賜り、この計画につき詳細にご説明申し上げる光栄に浴した

貴賓の御来社

◆昭和19年10月31日　賀陽宮恒憲王殿下の御光栄

◆昭和29年10月31日　東久迩宮稔彦王殿下の

御光栄

◆昭和33年 3月28日　北白川宮房子内親王殿下の御光栄

◆昭和34年 4月21日　東本願寺法主大谷光暢台下と智子御裏方の御光栄

◆昭和35年10月23日　元・清宮貴子内親王殿下と御夫君島津久永殿の御光栄

表　彰　関　係

◆昭和29年 4月18日　多数の発明特許及び産業の功労者として「藍綬褒章」を賜る

◆昭和40年11月 3日　多年に亘る国土計画にて国家に貢献および産業功労者として「勲二等」に叙せられ、「瑞宝章」の御下賜に浴す

◆昭和48年11月27日　特旨を以て(従四位)に叙せらる

◆昭和48年11月現在　伊勢神宮司庁を始め、政府、各都道府県、市町村の首長及び各業界団体よりの表彰は多数につき省略

社会事業関係

◆昭和19年 6月　静岡県翼賛会総務に委嘱さる

◆昭和48年現在　日本赤十字社を始め、各種社会事業の関係は非常に多数につき省略

㈱富士製作所の本社工場

あ と が き

財団法人田中研究所設立40周年に当り、初代田中清一理事長とゆかりのある方々より、「平和国家建設」特に高速自動車道建設についての思い出や、今後の若い世代に対する励ましのお言葉を頂き誠にありがとうございました。静岡県沼津市、岐阜県中津川市、長野県飯田市それぞれの地区に田中清一翁の顕彰碑を、ご寄稿の方々ならびに各地区の政財界の有志により建立され、後世に残されたことに重ねて深甚なる感謝を申し上げ、この小冊子の編集のまとめとさせて頂きます。

平成 6 年12月

常任理事　田中　穂積

財団法人 田中研究所の役職員

理事長	瀬上　清高	顧問	今井　高士
常任理事	田中　穂積	評議員	松田　江畔
理事	野田　精一	評議員	林　宗重
理事	土橋　義廣	評議員	古川　茂樹
監事	後藤　毅	事務局長	田中　清朗

〒410　静岡県沼津市杉崎町11-11 ㈱富士製作所内

電話〈0559〉21-2233：ファックス〈0559〉21-2239